



熊本市 感染症発生動向調査 速報



その咳、大丈夫ですか??長引く咳には思わぬ病気が潜んでいることがあります!!

● 百日咳について (後編)

◆ 予防法は?

4種混合ワクチン(ジフテリア・破傷風・百日せき・ポリオ)の予防接種が有効です。定期接種として生後3ヶ月から7歳半までに4回接種することになっています。



◆ 集団発生や重症化もみられます

百日咳ワクチンの免疫効果は4～12年で減弱し、最終接種後時間経過とともに、接種をしても感染することがあることから、典型的な症状がない、免疫が減退した人の感染を発端として集団発生につながる場合があります。近年では、県外で小中学生の集団発生を発端とした地域での患者発生数増加、家庭内感染などの報告があります。特に狭い空間の中で長時間共有する施設では百日咳菌が簡単に広がる可能性がわかっています。

月齢6ヶ月以内のお子さんが百日咳にかかった場合、重要化しやすく、けいれんや脳炎を起こすことがあり、12%が肺炎になり、0.2%が亡くなってしまおうといわれています。

ワクチン接種により、百日咳の罹患リスクを80～85%程度減らすことが出来るため、3ヶ月を過ぎたら、定期接種を受けましょう。

2016年11月に百日咳核酸検出法LAMP法が保険適用となり、同様の症状がある人を含めて積極的に検査を行う必要があると考えられています。

◆ 学校保健安全法における取り扱い(2018年1月1日現在)

第2種の感染症に定められており、「特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌薬療法が終了するまで出席停止」とされています。ただし、病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認められたときは、この限りではありません。

期 間		平成30年 40週		平成30年 41週	
		10/1～10/7		10/8～10/14 (最新)	
疾患名 <small>(百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました)</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	➡	0	0.00	6	0.24
RSウイルス感染症	➡	24	1.50	30	1.88
咽頭結膜熱(プール熱)	➡	7	0.44	2	0.13
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	8	0.50	19	1.19
感染性胃腸炎	➡	58	3.63	54	3.38
水痘(みずぼうそう)	➡	2	0.13	3	0.19
手足口病	➡	14	0.88	11	0.69
伝染性紅斑(りんご病)	➡	0	0.00	0	0.00
突発性発しん	➡	9	0.56	10	0.63
ヘルパンギーナ	➡	12	0.75	5	0.31
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	➡	2	0.13	2	0.13
急性出血性結膜炎	➡	1	0.20	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)	➡	18	3.60	12	2.40
細菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	➡	1	0.20	0	0.00
マイコプラズマ肺炎	➡	2	0.40	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	➡	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	0	0.00	0	0.00